

## 今月のトピックス 「キャベツ黒腐病について」

本病は各種のアブラナ科野菜に発生する代表的な細菌性の病気です。キャベツは、ハナヤサイやブロッコリーと並んで被害を受けやすい作物のひとつです。

近年では、台風の襲来が多かった平成 16 年に発生が多く見られました。

### ◆被害の様子◆

圃場では下葉から発生し、葉の縁に V 字に入り込んだ扇状の黄色病斑となり、褐変しながら拡大していきます。病斑部は古くなると枯死して乾燥し、破れやすくなります。被害が激しいときには茎まで侵されて、導管部は黒変します。

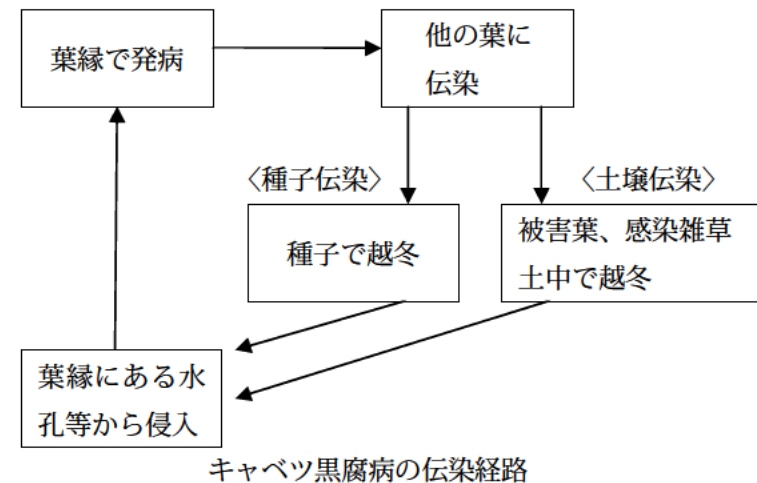


被害の様子

### ◆伝染経路と発病条件◆

種子伝染と土壌伝染があり、種子伝染の場合は、種子の発芽後子葉の水孔等から侵入します。土壌伝染の場合は、降雨時の雨滴によってはねあがり、葉縁の水孔等から侵入します。侵入した病原菌は導管を伝わって広がり、4～6 日もすると病徴が現れ始めます。

本病は、夏や冬に発生することは少なく、9～10 月頃の比較的気温が低く、降雨が多い年に発生しやすくなります。育苗中に大雨にあったり、本圃定植後に台風の被害を受けて茎葉に傷ができたたりすると多発することがあります。



### ◆防除のポイント◆

- (1) 大雨や台風、長雨のあとは、天候が回復しだい薬剤を散布します。
- (2) アブラナ科作物の連作は避け、黒腐病に強い品種を使うようにします。
- (3) 病気にかかった葉などは伝染源となるので、圃場に放置せずに外に出して焼却するか、土中深く埋めます。